

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木 1F		
所在地	佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和3年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 2年11月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念『まごころ』のもとに、スタッフ一同、本当の家族のように愛情を込めて、明るく楽しい雰囲気の中、入居者様のお手伝いをさせていただいています。地域の行事には積極的に参加し、また、隣接の小規模多機能ホーム、認知症デイサービスと共にサクラ白木として合同で行事を行い、地域との交流を図っています。庭に畑を作り自家菜園を行って、種まきから収穫までみんなで楽しんでいます。『自分の親を入居させてもいいなあ』と思える施設づくりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

戸建て住宅を思わせる事業所は小高い地区に位置し、周囲は住宅が並ぶ穏やかな場所にある。職員は、利用者の穏やかな日常を家庭的な環境で過ごせるよう、理念の“まごころ”の具現化に取り組んでいる。そのため、職員全体のスキルアップを重視し内部研修を行っており、研修では、アンケート形式と豊富な資料を用い、認知症や介護支援の理解がしやすい工夫がある。母体法人のサポートがあり、職員は安心して介護支援に集中できる環境である。今年度は新型コロナウイルス感染予防の観点から外出制限したが、バーベキューや季節行事のイベントなど、利用者の気持ち落ち込まないよう、心のケアに力を入れている。管理者を中心に職員・利用者共にウイットに富んだ会話と笑顔が溢れる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念の言葉を理解し共に共同し、いい方向に進めるよう努力している。	理念の“まごころ”を基に、心得として、笑顔で利用者に寄り添い家族のように愛情込めて支援すること等を掲げている。職員は、年間目標をそれぞれ決めて理念の具現化に取り組んでいる。また月間目標である“人に優しい言葉掛け”は、利用者だけではなく職員間も意識し、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年なら町の行事、夏祭り等参加していたが今年はコロナで行事自体なかった	町内の回覧板に事業所の広報誌を載せたり、町内清掃、草刈りなど自治会の一員として、参加している。地域の情報は、町内会長や回覧板で得ており、隣接の系列事業所と共に、地域に浸透し、認知症ケアについての相談などにも対応している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当時業者は、そのような理解や支援の方法は今年はコロナの影響で充分には出来てなかった			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に市・町内会共に参加して頂き、当事業所の現況報告など理解して頂いていた。コロナ感染拡大予防の為、今年度は開催していない。	2ヶ月に1回、規定の参加者で開催していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、今年度は書面での対応である。事業所の状況、行事、ヒヤリハット、事故報告など議事録で確認できる。ただし、市への報告のみであり、メンバーに対し議事録の配付はこれからである。	事業所の現況や研修、事故報告など利用者の暮らしぶりを、外部の人々の目に通し、地域の理解と支援を得るためにも、議事録を参加メンバー等に情報発信することに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内の回覧板に小規模だより等広報誌を載せている	介護保険の認定更新などの機会に、本庁へ出向き担当者へ事業所の実情や取り組み等を話している。日常の連絡は、主にファックスで行っており、情報共有しながら、協力関係を築くように取り組んでいる。市のアンケート調査には、迅速に返答している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては常に職員同士で話し合い、どこまでが身体拘束になるかなど議論している。身体拘束委員会による勉強会が設けてあり、何回も繰り返し勉強している。	身体拘束委員会による勉強会で、事例を挙げ繰り返し話し合っている。また、事前のアンケートでの日常のケアの振り返りや気づきを身体拘束しないケアの実践に繋げている。日中は玄関の施錠も無く、外出の気配には見守りで対応している。センサー使用は家族に説明し同意書を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の勉強会などを通じて防止に努めている。同時に利用者の変化がないか精神的・肉体的観察を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的にドライブや近くの公園などへ散歩などに出掛けるようにしている。天気が良ければ本人の希望に応じて外出などしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と本人、管理者・ユニットリーダーで行われている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三ヶ月に一度ケアプランを基にかえられている	新型コロナ禍の現状では、家族等の面会を制限し、ベランダ越しに面会したり、電話や手紙でのやり取り、メールで写真と日頃の様子を伝えている。職員は、家族訪問時に、ケアプランへの希望も含め何でも気軽に相談してもらえるような信頼関係の重要性を認識し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に伝えスタッフ間で会議を行い、決めている	月一回のフロア会議では、提案や些細な気付きなども話し合う他、手すりの改修や有給休暇の取得などに職員の意見を反映している。年度末に管理者と職員の個人面談があり、目標決定は書面で提出している。勉強会は職員が事前アンケートで課題を決め充実し、スキルアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特定処遇改善加算の分配や、正月・盆手当が給与改善になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に二回勉強会が企画しておりそれぞれに参加している。参加できない時資料をもらい説明を受けている研修にも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所としては行事がらみの交流はあるが勉強があまりない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の昔の話しなど、聞きながらこれから先のなど聞いていく		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることなど聞いてそれから意見などして不安など解決していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極めながらスタッフだけで困難な場合は家族様にも手伝って頂く		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様がやりたい事などあれば、それを1日の流れの中に入れて過ごして頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が電話などされた時などは本人様と話をしたり居室などで座って話しを出来る環境にする		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	幼馴染みの方がいたら白木の方に来て頂きお話しなどしてもらったりしていたが、	読書好きの利用者には、家族から書籍が届き毎日楽しんだり、パソコンのネットを利用する時には、家族と相談の上、見守っている。職員は、今年度フェイスシートを見直し、新たに得た情報を追記し共有している。また電話や手紙、メールを活用し馴染みの関係継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファーに座ってみんなで、お話しができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に相談出来るように、努めている。退所後に亡くなられた際、関係のあった職員が葬儀に参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の希望や思いに沿った生活につとめている、自己表現の難しい方の心情的把握に努め本人の希望に沿えるよう検討している	職員は利用者の生活歴や習慣、ペースを把握し、支援する際には必ず意向を聞き、無理強いない支援に努めている。目の不自由な利用者には手で触って確認してもらったり、難聴や表現の困難な場合は、表情や仕草から検討すると共に、家族と相談しながら、一人ひとりの思いに沿えるよう支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で本人に昔の話など聞き情報を得る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や状態を把握し1日の過ごし方を考えいる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの意見を聞きながらケアプランを考えている	ケアプランは、利用者視点で必要な支援を検討し、3ヶ月毎に見直している。日々の支援状況は個人カルテに記録し、ミーティングに於いて職員は実践状況や変化について話し合っている。ケアプランの更新時、ケアマネージャーは家族と面談し、希望を確認している。利用者の希望は日頃の関わりから検討し、反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の情報をカルテに残しそれに沿った対応をする。常に申し送りで伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに合った運動や食事、入浴、睡眠が出来るように取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事に参加 今年コロナの為、参加なし		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様が納得できない時や不安な時はスタッフと一緒に利用者の受診に付き添ってもらっている	かかりつけ医受診は、本人や家族の希望を尊重している。通院が必要な場合、家族が介助することを基本としている。協力医療機関との往診や訪問看護を受診する体制も整っている。受診内容は、個人カルテに記載し、電話で家族に報告している。協力医療機関と24時間連携体制を築いており、夜間緊急時も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月一回の訪問診療で利用者の状態を報告し、その都度指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連携をとり家族様に、その都度内容を説明している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期など家族様と相談したうえ、他の施設や病院に移動してもらっている	重度化及び看取りに関する指針があり、利用開始時に説明している。事業所の考え方や支援内容を明確に記している。主治医の診断により、利用者の体調に変化が見られた時は、家族と話し合いの場を設け、意向を優先している。これまで看取りの事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故報告に書きその都度対応。家族への謝罪事故説明スタッフ会議、今後の対策を話し合う		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年二回の避難訓練を行っている	年2回の避難訓練を実施している。夜間想定は自主訓練し、消防署立会いでは日中想定訓練を行っている。訓練後は消防職員の助言を受け、事業所の避難内容を見直している。食料備蓄は整備しているが、持ち出し備品は検討中である。また、自然災害は地震想定資料を整備しているものの、訓練は未実施である。	未曾有の事態に備え、消防署の助言の精査し、自然災害対策及び持ち出し備品の整備に期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの性格を理解し日常の生活を把握しその利用者様にあった会話を心掛けている	職員は、理念である“まごころ”を具現化し、利用者と目線を合わせ優しい言葉遣いで支援している。介助の前に必ず声を掛け、利用者の誇りを損なわない支援に努めている。ホーム便りへの写真掲載の同意書を得ている。個人情報に関する書類は事務所で保管し、職員には個人情報の取り扱いや守秘義務を周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で利用者様との会話コミュニケーションを取り聞き実現できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の日々の体調や希望を把握し支援できるように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせて着て頂いている爪や耳かき髪切りは定期的に行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを聞き食事を作っている正月など行事の際はそれにちなんだ食事を提供しているかたづけなど出来るだけ手伝ってもらっている	利用者の嗜好や旬の食材を用いた献立を職員が調理している。咀嚼に合わせた調理法で利用者の食欲を高めている。新型コロナウイルス感染拡大前は、ケータリングや外食支援を実施していた。現在は、誕生日には本人のリクエストメニューを提供し、季節行事に合わせた献立など、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの摂取量把握し状態に応じて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け行い誘導し必ず最後はスタッフで磨き直しを行っている義歯は夕食後消毒洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常時リハパンの利用者にはパット交換を行い訴える事ができる利用者は訴えがある時にトイレ誘導を行うようにしている訴えができない利用者には時間をおき誘導を行う	職員は、一人ひとりの排泄支援状況を排泄チェック表に記録している。記録を基に、習慣やパターンに応じた支援を検討している。時間や仕草でトイレ誘導を行い、失禁回数を減らし利用者の不安を軽減している。リハビリパンツやパッド類の使用内容も、常に見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの利用者には牛乳など飲んで頂くようにしている。トイレ誘導に腹部マッサージを行い時間を決めて個々の運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回入浴して頂く際に声掛け行い快く入浴して頂くように心掛けている	週2回入浴支援を行っている。入浴拒否時は、時間や声掛けを変えたり、別日に変更する等無理強いない支援を心掛けている。清潔保持の観点から入浴日以外の清拭やシャワー浴など多様性がある。入浴時は浴槽に浸かり、職員との会話を楽しむなど、利用者が安心して入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床の声掛け行い、本人の承諾を得て入床して頂くようにしている。入床前に必ず排泄して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの持病など把握し、薬の効果を理解した上で服用して頂くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意な分野好きな事などに合わせて、お手伝いレクリエーションを実施するするように心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブや近くの公園などへ散歩などに出掛けるようにしている。天気が良ければ本人の希望に応じて外出などしている。現状はコロナ感染予防で行けてない。	従来は、気分転換のドライブや季節ごとの外出を企画し、皆で楽しんでいる。現在は新型コロナウイルス感染予防の観点から、外出を制限しているため、敷地内での外気浴を実施している。また、季節の花々をリビングに飾り、季節感を味わえるよう工夫している様子が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所でお小遣いとしてお預かりし、希望に応じて買い物代行支援や、同行支援し金銭管理代行、行っている。要望に応じて家族の同意の下、小額を保持されて1名本人が少額の金銭の管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい方は電話をしてもらっている。手紙が届いた場合は、代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事にあわせ飾り付けを行って、温度湿度の調整トイレの混乱がないように心がけている。	陽当りのよいリビングは、すだれで光を調整し、職員が温度湿度の管理や定期的な掃除を行い、日に3度の換気で臭気も無い。季節毎の飾り付けで四季の移り変わりを感じ、オープンキッチンの調理の音や匂いは家庭的である。利用者は体操したり読書やテレビ鑑賞など自由に寛げる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中全利用者様が、フロアで過ごされる方が多い。利用者様同士の会話から不穏になる人がいるので注意を払っている。利用者様同士での人間関係を見定めて、必要に応じた席替えなども行っている。自由に居室やホールの出入りが出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	火気以外は馴染みのもの、使い慣れたものなどの持込で頂き、本人、家族とも相談しながら写真(猫など)や飾りつけなど好みに応じて居心地良く過ごしていただけるよう工夫している。本人様の物に、名前記入しわかるようにしている。	居室はクローゼットの設置があり、自宅からテレビ、テーブル、椅子など自由に持参できる。家族、職員に相談しながら、パソコンで買い物する利用者もいる。陽当たりもよく掃除や換気も適切である。人形や動物の写真など本人の愛用品が傍にあり、その人らしく居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足が不自由な方など廊下に物を置かず動線を確保し、浴室ではマットを敷き、浴槽内では滑り防止を図っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人 幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木 2F		
所在地	佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勉強会主催時に理念にふれたスタッフ間で確認し合った。昼の申し送りの後、スタッフで復唱している。各自それぞれ努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で、町内の情報を共有している。町内清掃では複数のスタッフが参加している。斜面の草刈り等、町内の方と協力し談笑も交えて行っていた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	Faより身内の方の初期の認知症についての相談を受け、次のステップへとつなげる。地域の方より認知症についての質問や対応のアドバイスを相談時、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に回、運営推進会議を開催していたが現状、コロナ感染防止のために行えていない。しかし、2ヶ月分の振り返りや白木だよりの発送をしてサービスの実際等の報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	アンケートにはすぐ返答している。隣接した老人新設が閉鎖した時、その施設をご利用されていた方の新しい入居先等の手配を協力して行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間、GH独自、又、合同（小規模）での勉強会を行っている。今年は事前のアンケートや参加型の勉強会を行い、受け身でなく主体的に自他の振り返りを行い無自覚だった気づきや介助の向上につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律も知識を持ち、未然の防止にも各スタッフ努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をつかっている利用者様はいるが制度を学ぶまではっていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等あった時は手紙を送ったりして対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様よりクレームがあった時は会議を行って今後の対応を決めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員と面談し意見を聞かれている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各、個人の能力に合わせた職場環境条件になっていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正社員は2ヶ月に1度、勉強会を行っている。緊急性がある時はその都度、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、隣接する小規模多機能施設と勉強を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、施設内に慣れて頂けるように日常の様子を見守り、積極的に話かけスタッフの申し送りを確実に言い、安心した日々を送って頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠慮なく何でも話して頂けるように雰囲気作りをしスタッフ全員で、情報を共有している。知恵を出し合いサービス向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様が何を必要とされているのか見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある”本当の家族のように”接する事が出来るように声掛けしお願いや支援が自然な行動で実行するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に担当スタッフは面会・電話の度に出来るだけ近況を伝え支援の現状を伝えるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のご協力のもと、お寺関係・教会関係の方との面会(電話含む)を支援している(コロナ禍以前)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の興味ある話題を把握し複数人で会話できる場を作るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院や他の施設に移動された後も面会に行ったり、ご家族様への声かけを行っている。(コロナ禍前)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話で、入居者様から要望を言いやすくできるように努めている。ご家族様との電話でのやり取り等の際は、最近の状態をお伝えして声かけするようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴などを資料化して把握できるようにしている。日常生活の中で入居者様との会話、ご家族様からの情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、個人カルテ記録、業務日誌などで様子や体調の変化などで把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状などに意見を出し合い検討している。ご家族様や入居者様に要望をお聞きし、作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人カルテに記録し食事摂取や排泄チェック表などで職員間で状態の変化などに対応し努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様に対しての気づきや変化など検討し必要な支援を実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議へ地域の方にも参加して頂きまた地域の行事には職員と共に参加して楽しまれた。(コロナ禍前)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、往診を受け医療の相談をすることができ、万が一異常があった場合、病院受診の手続きを取り不安なく過ごせるよう支援している。定期的に外科等、受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、入居者様全員の情報をNSにFAXし報告を行っている。特変者や様観者は個別に1日の経過をFAXで報告し電話で相談したりNSより指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携により情報提供や連絡を行っている。家族への連絡等で状態把握に努め主治医との相談も行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	酸素の設備など行い24時間の診療所との連携、夜間帯のオンコール体制をとっており日々の入居者様の変化、情報を医師、職員、家族と共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特変時の初期対応、応急手当の確認や定期的なシュミレーションを行っていく課題がある。夜間や緊急時の連絡や対応マニュアルを電話の横に掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	半年に1回、避難訓練など消防署の指導による訓練を実施し職員それぞれが参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	現在は居室にこもられたりする入居者様はいらっしゃらないが、オムツ交換や排便の対応時等は居室のドアを閉めている。ただし居室内に汚物や汚染類をためてしまう方の場合は確認するようにはしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択できる場面では選択してもらえるようにしている。例えば排泄や入浴など支え方や洗いや、拭き方等を聞き本人様の望んだやり方をするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方等を把握しその方のリズムに合わせ援助をするようにしている。食事や入浴、排泄等、声掛けで促しはしているが無理強いはしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の洋服類のデザイン、組み合わせ等は考えて更衣などしている。身だしなみも乱れてないかなど、確認をするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	飽きがこないよう、様々なメニューを考え定期的に行事食も提供している。デザートや果物等で気分を盛り上げている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、副食もバリエーションを考えて提供している。野菜のおかずを必ず加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている他、おやつの後なども誤嚥しないよう口腔内を確認するようにはしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行なっている。間隔を把握し間隔があいている方にはタイミングを図って声掛けを行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力での排便が難しい方や排便がスムーズでない方と様々である。水分摂取や軽い運動などで体を動かして頂いたりその方の状態に合わせて緩下剤を使用したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日ごとに基本、入浴者を決めている。その日に入浴の拒否があれば入浴者を交代して頂いたり清拭、更衣を行っている。その日の体調や気分によってはシャワー浴や短時間での入浴も行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休みたいと希望があれば臥床して頂いたり身体の状態に合わせて午前・午後で午睡を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は誤りがないように複数の職員で確認して行っているが薬の内容やなどでは勉強不足な所もあると思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の各、個人に適した仕事(お手伝い)をお願いし感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は企画をし外出や花見、ドライブなど行っていたが現在はコロナ感染予防のため、外出はできていない。敷地内でのバーベキューを企画し実施した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が困難な入居者様はホームの事務所の金庫へお預かりし保管している。又、日用品など購入品があったり受診など支払いが生じた際はすぐに使用できる環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や大切な方からかかってきた際は本人様に電話をかわりお話しして頂いている。近況を知って頂く為、写真をメールでお送りしている現状がある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に行事の際の装飾品を飾ったり鯉のぼり、クリスマスやお正月など季節感ある空間づくりを行なっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の他にフロア内にソファを配置し入居者様同士で会話を楽しまれる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具や装飾品を持ち込んで頂いたり写真(御家族様の)を飾ったりして居心地のよい空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用や杖使用、独歩など形態は違うが通路の確保や椅子の使い分けなど工夫している。レベルの低下は緩やかでも低下はしていくという意識を持ちスタッフ間で話し合っていくようにする。		